

化合物薄膜太陽電池の 研究開発動向

2023年3月15日(水) 10:00 ~ 18:00

上智大学 四谷キャンパス + オンライン(ハイブリッド開催)

2021年末時点の世界の太陽光発電システム累積導入量は942GWに達し、今年度中にはテラワットPV時代を迎えると思われます。日本においても、2020年末の時点で累積導入量が71GWに達しており、中国、アメリカに次ぐ世界第三位の太陽光発電の累積導入量になっています。これからのPV拡大の一つは様々な用途での利用です。フレキシブル化の可能性のある化合物薄膜太陽電池は、PV拡大の一翼をになうと期待されます。本シンポジウムでは、化合物薄膜太陽電池について、材料、デバイス、応用、評価に関する研究開発の第一線で活躍されている先生方に、さらなる高効率に向けた技術開発や評価技術の進展について、学生等の初学者にもわかりやすく講演していただきます。そして、今後の化合物薄膜太陽電池の研究開発の方向性や課題、役割を聴講者と共有できる機会としたいと思います。みなさまのご参加と一般講演の投稿をお待ちしています。

招待講演者 (敬称略)

講演題目 (仮題)

仁木 栄 (NEDO)	拡大する太陽光発電
金井 綾香 (長岡技大)	Cu ₂ SnS ₃ 系太陽電池の特徴と高効率化技術
野瀬 嘉太郎 (京都大)	リン系カルコパイライト太陽電池
新本 哲也 (出光興産)	CdTe太陽電池の高効率化技術
上川 由紀子 (産総研)	ボトムセル応用に向けたCIS太陽電池の研究
山田 明 (東工大)	CIS太陽電池の高効率化とトップセル応用に向けた研究
和田 淳 (東芝)	トップセル応用に向けたCu ₂ O系太陽電池の高効率化技術
根上 卓之 (立命館大)	CIS太陽電池とペロブスカイト太陽電池 類似点と相違点
寺田 教男 (鹿児島大)	各種化合物薄膜太陽電池の電子状態のキャラクタリゼーション

